

令和5年度（2023年度）

## 「熊本の学び」の推進に向けた取組実践事例集

夢を実現し 未来を創る 菊池っ子の育成  
～ 誰一人取り残さない菊池の教育 ～



### 1 参考指標の向上に関する事例

- ・参考指標1「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」
- ・参考指標2「家で自分で計画を立てて勉強していますか。」
- ・参考指標3「授業の内容はよく分かりますか。（各教科において）」

### 2 「熊本の学び推進プラン」に関する事例

### 3 「熊本の学び」アクションプロジェクトに関する事例

- ・柱1「誰一人取り残さない学びの保障」
  - 「個に応じた指導・習熟度別指導の拡充」「読み・書き・計算の習得の徹底」
  - 「定着確認の徹底」「読解力向上の取組実践」
- ・柱2「教員一人一人の授業力向上」
  - 「学校運営に関する助言の強化」「授業観察の習慣化」
  - 「校内研修内容の重点化」「構想・省察の習慣化」

熊本県菊池教育事務所

## 令和5年度「熊本の学び」事例集

参考指標の向上に関する事例				
章	内容	市町	学校名	ページ
参考指標の向上に関する取組	参考指標 1	菊池市	菊池北小学校	3
		菊池市	泗水小学校	
		菊池市	泗水西小学校	4
		合志市	西合志南小学校	
		大津町	大津南小学校	5
		大津町	大津東小学校	
		大津町	大津北小学校	6
	菊陽町	菊陽中部小学校		
	菊陽町	菊陽南小学校	7	
	菊陽町	菊陽北小学校		
参考指標 2	参考指標 3	菊池市	七城中学校	8
		菊池市	旭志中学校	
		菊陽町	武蔵ヶ丘中学校	9
		菊池市	泗水東小学校	10
		合志市	西合志南中学校	
「熊本の学び推進プラン」に関する事例				
第2章	教職員による連携・協働	合志市	合志楓の森小学校・合志楓の森中学校	11
		菊陽町	菊陽西小学校	
		菊池市	菊池北中学校	12
第3章	導入の工夫	合志市	西合志中央小学校	13
	展開の工夫	合志市	合志南小学校	
		合志市	南ヶ丘小学校	14
		大津町	大津北中学校	
	終末の工夫	菊陽町	武蔵ヶ丘小学校	15
	ICTの活用	菊池市	花房小学校	
		大津町	大津小学校	16
大津町		室小学校		
菊池市		泗水中学校	17	
第5章	家庭との連携	合志市	西合志東小学校	18
	五者連携	菊池市	菊池南中学校	

「熊本の学び」アクションプロジェクトに関する事例				
章	内容	市町	学校名	ページ
柱①	個に応じた指導	合志市	西合志中学校	19
	読み・書き・計算の習得の徹底	菊池市	隈府小学校	
		菊池市	旭志小学校	20
	定着確認の徹底	菊池市	七城小学校	
		合志市	合志小学校	21
		菊陽町	武蔵ヶ丘北小学校	
	読解力向上の取組実践	大津町	菊陽町	菊陽中学校
護川小学校				
柱②	校内研修内容の重点化	菊池市	菊之池小学校	23
		菊池市	戸崎小学校	
		合志市	西合志第一小学校	24
		大津町	美咲野小学校	
		合志市	合志中学校	25
大津町	大津中学校			

## 課題解決に向けて、全体で見通しを共有し、自ら課題に取り組む取組 ～菊池市立菊池北学校～

- 授業冒頭に、課題解決に必要なキーワードを提示し、全体で共有する。
- 課題解決場面において、自らが最適な方法を選択し、自分なりのやり方で解決を図る。



### 【授業の様子】

ノートやタブレット、具体物など、自ら最適な方法を選択して課題に取り組んでいる。

課題提示の際に、全ての児童が自分の考えを持つことを目指し、課題解決に必要なキーワードや使える考え方を共有する場面を取り入れている。課題解決に不安のある児童にとって、解決までの見通しを持つことができ、自信をもって自ら学習に取り組めるようになった。

また、解決に最適な方法を自らが選択できるようにすることで、児童が友達の多様な考えに出会うことができたり、友達との交流によって考えを広げたり深めたりするなど、主体的な学びにつながってきている。

## 児童が主体的に学習に取り組むための学びの流れづくりの取組 ～菊池市立泗水小学校～

- 授業最初の学習の流れの固定化
- 授業時間内での基礎・基本の定着



### 【授業の様子】

国語の学習の流れに沿って、毎時間授業の最初に音読に取り組んでいます。

学年の実態に応じて、授業最初の学習の流れを固定化し、見通しを持って児童が主体的に取り組むことができるようにしています。

例えば高学年では、「漢字の練習」、「音読」、「前時のふり返し」、「本時のめあての確認」までを教科リーダーが進めるようにしています。

授業時間内に、漢字や音読などの基礎・基本を定着できるように時間を確保しています。

### 児童が自己調整しながら学ぶ取組 ～菊池市立泗水西小学校～

- 単元の中で、学習課題や学習方法を児童が選択・決定・調整する。
- 単元を通じた学習課題と照らし合わせて振り返り、学習の見通しをもつ。



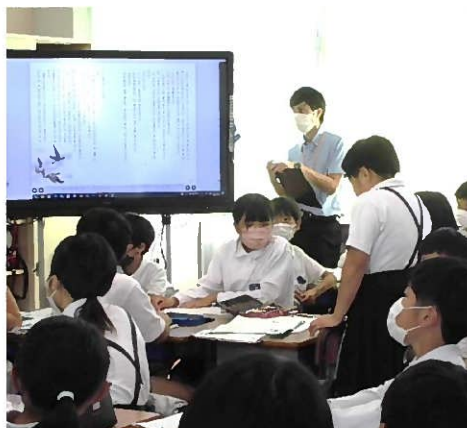
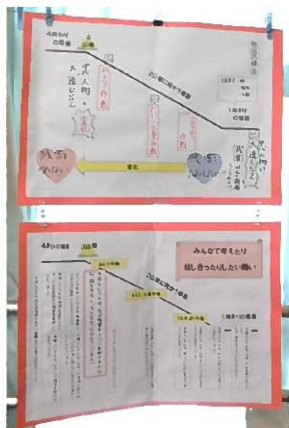
【授業の様子】

自分が選んだ学習課題を解決するために、場所や形態、方法を選びながら学習を進めています。

単元を通じた学習課題を解決するために必要な学習課題を児童が選択・決定・調整することができるような単元をデザインしています。自己調整する機会を保障することで、児童の自律性が高まることをねらいました。自分で選んで決めた学習課題だからこそ、自分事として取り組むことができます。また、単元を学習課題と照らし合わせて振り返り、学習の見通しをもつことで、学習意欲の継続を図りました。

### 児童が単元のゴールを見通し、対話を通して読みを深めようとする取組 ～合志市立西合志南小学校～

- 朗読動画「大造じいさんになりきって朗読してみた！」を単元の終末の活動とし、児童が単元全体を見通して学習を進めることができるようにする。
- 導入時に、児童の問いから課題を設定することで、主体的に取り組めるようにする。



【授業の様子】

毎時間の心情の変化を掲示し、前時と本時の違いを意識して学習を進めている。叙述を基に考えの根拠や理由を明らかにさせながら話し合いをしている。

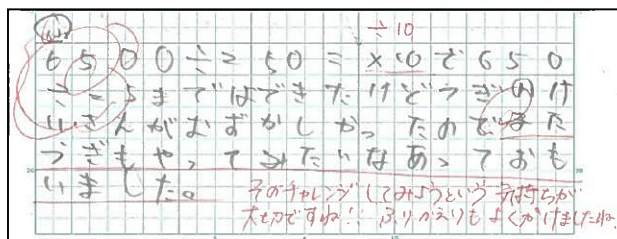
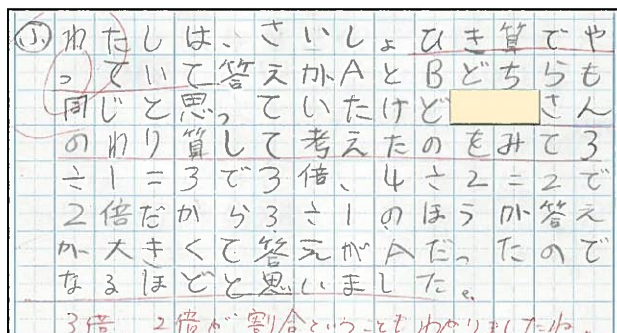
単元の最初に、教師自身が動画配信サイト風の朗読動画を提示したことで単元のゴールが明確になり、児童の朗読に対する意欲を引き出すことができた。

大造じいさんの心情の変化を掲示しておくことで、本時との違いを意識しながら学習を進めることができた。

登場人物の心情を読み取る際、独語、心内語、情景描写を見つける時間を十分に取、叙述を基に考えの根拠や理由を明らかにさせながら話し合いを進めた。さらに、読み取った人物像を基に毎時間の終末に朗読する時間を設けたことで、単元のゴールを常に意識しながら、読みを深めることができた。

### 児童が学びの価値を自覚する振り返りと評価の工夫 ～大津町立大津南小学校～

- 児童には、振り返りの視点を与え、それを基に本時や単元の振り返りを行わせる
- 振り返りに対する教師のコメント（形成的評価）を行い、児童に学びの価値の自覚を促す



【児童の振り返りと教師のコメント】

朱書き部分が教師のコメント。常に肯定的な評価になるよう心がけています。

本校の学習の振り返りでは、視点に即した取組を行っています。視点はいくつかの事例を基に、各教師で設定しています。左の事例の視点は、「『誰（友だち）』が『何と言った』時に、分かったか」です。

また、児童の振り返りに対する教師のコメント（形成的評価）を継続して行うようにしています。

左上の写真は、児童の数学的な見方・考え方について評価し、自覚を促しています。左下の写真は児童の汎用的な学び方を評価し、自覚を促すことをねらいとしています。教科特有の見方・考え方や資質・能力の自覚や汎用的な資質・能力の自覚を促すことに努め、それらの醸成を目指しています。

### 学習リーダーを中心に児童が主体的に学習する取組 ～大津町立大津東小学校～

- 協働学習を主体的に進行する学習リーダーの育成
- 思考を広げるための本校キャラクターの活用



【授業の様子】

学習リーダーがガイドをもとに、友だちの考えを引き出しています。

協働学習の中で、児童が主体的に学習を進めていくために、学習リーダーの育成に取り組んでいます。児童の学習課題に対して、学習リーダーが授業を進行することで、自主的な雰囲気がつくられます。児童がお互いに声をかけ、学習内容を確認しながら学習を進行します。学習リーダーには、事前にその授業の学習活動の流れを示した「ガイド」を渡し、それを手がかりに授業を進めていきます。

子どもが多様な考えを持ち、自らの考えを確かなものにするために、本校独自のキャラクターも使用しています。

## 学習リーダーを中心とした学び合いを通して、主体的に問題を解決する取組 ～大津町立大津北小学校～

- 学び合いながら解決に向かうための、学習リーダーを中心とした授業づくり
- 学習リーダーに向けた「学習の手引き」の作成と活用



【授業の導入で「めあて」を設定する様子】  
学習リーダーが中心となって、これまでの学びや新たな課題について学級全体で考え話し合いながら「めあて」を設定しています。

学習リーダーが中心となってめあてを設定することで、児童自らが課題の解決に向けて主体的に取り組むことができるようになりました。教師主導の進行場面が減ったことにより、児童同士の対話が増えるとともに、教師の支援を要する児童に関わる時間が確保できるようになりました。

また、授業の進め方を例示した「学習の手引き」の活用により、どの児童も安心して学習リーダーとして学習を進めることができています。本取組の継続により、「学習の手引き」に記された言葉を使うばかりではなく、児童自らが主体的に考え、発信する授業を展開できるようになりました。

## 学びを実感し、自ら学びへと向かうことができる児童の育成 ～菊陽町立菊陽中部小学校～

- 主体的な学びを引き出すための課題設定や発問の充実
- 思いや考えをつなぐための学び合い・振り返りの充実



### 【授業の様子】

ICTを活用しながら社会的な見方・考え方を広げ、それを働かせながら「問い返し」による深い学びを行っています。

既習事項だけでは解決できない課題意識をもたせることで、児童は主体的に学び始めました。

ICTを活用しながら、複数の資料を提示し、基本となる情報量を増やしました。これにより「資料から分かること」「資料から考えられること」といった社会的な見方・考え方を広げました。

「問い返し（新たな問い）」をすることで、広がった見方・考え方を働かせながら深い学び合いを行っていきました。

最後は、深まった自分の考えをまとめ、共有することができました。

## 児童が「やってみたい」と思える導入の工夫 ～菊陽町立菊陽南小学校～

- 児童に興味をもたせるための、日常生活と結びついた学習問題づくり
- 児童が「解けるかも？」と思える手立ての工夫

先生は、熊本城マラソン（42 km）で3時間30分以内にゴールすることを目標としています。

現在、5 kmを25分で走ることができません。このペースで走り続けたとすると、目標を達成することができるでしょうか。



【児童に興味を持たせる学習問題】  
自分の考えをもち、見通しをもって取り組ませる二者択一の問い

第6学年「比例」の学習では、担任の趣味であるマラソンで問題づくりを行った。問題を提示すると、児童はすぐに担任に質問したり、答えの予想をしたりする姿があった。他学年でも児童が好きな食べ物やお店で問題づくりを行う実践を行った。

「解けるかも？」と思える手立ての工夫として、「比例」の学習では二者択一の問いにすることで、自分の考えを明確にできるようにした。他にも、導入で前時の復習を行うことで本時の学習内容に気付かせて見通しを持たせたり、教師が意図的に誤答をしたりすることで、児童の意欲を喚起する手立てを講じた。

## 児童が学習方法を自ら選択して課題を解決していくことができる取組 ～菊陽町立菊陽北小学校～

- タブレットを使った既習事項の確認
- 個人、ペア、グループを選択できる時間の設定



【授業の様子】

タブレットに前時までの板書の写真が入っており、好きな時に見られるようにしている。また、いつでも友達と相談できるようにしている。

児童のタブレットに毎時間の板書の写真を送りいつでも見られるようにすることで、既習事項を意識して解決する姿が見られた。また、個人、ペア、グループを教師が指示するのではなく、自由に動き回れる時間を設定することで、児童が学び方を選択して学習するようになった。さらに、振り返りに「わかったこと、わかった理由」という視点で書かせることで、自分の選択した学びについて振り返り、次時に生かすことができた。



## 生徒主体の授業のための「班別学習」 ～ 菊池市立七城中学校～

### ○小グループをつくり、生徒が主体的に学び合う授業の展開



授業の導入で、「めあて」カードを用いてその授業でのゴールを共有し、その後「授業の流れ」を示し学習活動の見通しを持たせます。

学習内容を深める場面では、3～4名の班を編成し、班長をスマールティーチャーとして主体的な学習活動を行います。小グループにすることで、班員は班長へ質問がしやすくなり、班長は班員へ教えるために予習をしたり実際に教えたりすることで学習内容の理解がより一層深まります。

単元の内容等によって計画的に班学習を設定し、すべての単元で班学習を行うようにしています。

## 「生徒が主役として輝く学校づくり」に向けた授業改革の取組 ～ 菊池市立旭志中学校～

- 生徒が主役となる「セルフ授業」
- 全員参加型の授業を行うための工夫



### 【授業の様子】

司会団である生徒が、授業を進めている様子です。司会進行や板書等すべて学習リーダーの生徒で行っています。

生徒が主役となる「セルフ授業」です。司会団を中心に司会進行を行いました。授業者と生徒と一緒に作り上げた授業となっています。

また、全員参加型の授業を行うため、発言レベルアップカードを使っており、全員が安心して授業を受けることができました。

学級目標の達成に向け、学級の課題について話し合い、主体的に計画し、実行することの楽しさや喜びを感じ、日常生活の向上を図ろうとする生徒を目指した授業となりました。

## 「学ぶ」ワクワクと、学び合いを大切にする取組 ～菊陽町立武蔵ヶ丘中学校～

- 「なぜ」（ワクワク）が生まれる単元を通した学習課題の工夫
- 協働的な学習を通して、学びを深める授業の展開の工夫



### 【授業の様子】

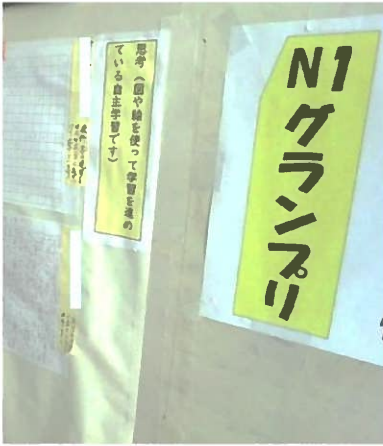
出された学習課題について、グループで議論している様子（左）と、全体で討論をしている様子（右）です。他者の考えを知ることを楽しみを感じたり、自分の考えを深めたりしている生徒が増えました。

・ワクワクが生まれる単元を通した学習課題を設定したところ、生徒が学びの主体となり、「なぜだろう」「おそらく」と疑問を持ち、自ら課題に取り組む姿が見られるようになりました。また、「なぜ学ぶのか」について話題にする生徒が増えました。

・校内研修では、子どもたちの課題克服に向けて、授業デザインにフォーカスし単元を通した学習課題について議論を深めたところ、教師間では教科を超えてワクワクする学習課題について話題することが多くなりました。

家庭学習の取組を「わかった・できた」につなげ子供が学び方を学ぶための手立て  
～ 菊池市立泗水東小学校～

- 「家庭学習がんばり週間」における家庭との連携と「漢字・計算大会」の開催
- 子供が学び方を学ぶ、「自学ノートコンテスト『N-1グランプリ』」の開催



【N1グランプリの掲示】  
自主学習ノートのコピーと  
説明が掲示されています。



【家庭学習がんばりシート】  
二次元コード付で、目標を  
記入します。

「家庭学習がんばり週間」を設定し、児童が家庭学習の目標や内容、時間等を設定する活動に取り組みました。保護者も一緒に取組内容を設定しやすいように、二次元コード付の「家庭学習がんばりシート」を作成し、配付しました。

「家庭学習がんばり週間」の直後には「漢字・計算大会」を実施し、基礎・基本となる問題を出題しました。家庭学習での取組が大会の結果にも反映されやすくすることで、児童は取組の充実感を得ることができました。

「家庭学習がんばり週間」中の自主学習ノートは「N1グランプリ」として審査し、掲示しました。優れた実践から、児童同士の学び会につながっています。

バックワードデザインによる効果的な英語力の定着に向けた活動  
～ 合志市立西合志南中学校～

- 単元終了時の生徒の姿を見据えた授業づくり
- 単元末活動を見据えた帯活動の充実

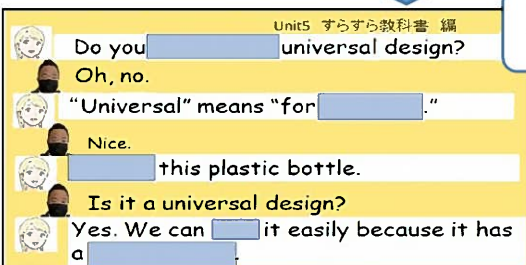
単元終了時の生徒の姿

ALTや友だちに住みやすい街No1合志を紹介するために、合志市のUDについて考えたことや興味があるもの・ことについて紹介し、単元の題材で学んだことを踏まえて、身近な暮らしについて事実や考えたことを発表している生徒

パフォーマンステスト（単元を通した学習課題）

ALTに、住みやすい街No1合志市についてよく知ってもらうために、合志市のUDについて考えたことや興味があるもの・ことについて発表しよう。

帯活動として「すらすら教科書」を使ってペアでやり取りをする様子



本校の英語科では、単元終了時の生徒の姿を見据え、単元の最後に設定する活動（本単元ではパフォーマンステストとして実施）に向けて、単元終了時から逆向きに単元デザインを行う、バックワードデザインによる授業構想を行っています。

その中で、各授業の内容につながりをもたせるために、帯活動として時間を確保し、単元を通して言語活動を継続的にを行っています。具体的には、単元の重要単語を定着させる活動「90秒チャレンジ」や、キーセンテンスを素材とした自作会話集「すらすら教科書」を活用したり、Small Talkを積極的に取り入れられています。

言語活動の中で生徒が伝えたいと思う英語表現や、生じる誤りについては中間指導を行いながら、生徒の課題克服につなげています。

【（帯活動例）単元で学ぶ内容を1つにまとめた自作会話集「すらすら教科書」】

9年間を見通した5つの小中合同部会の取組  
～ 合志市立合志楓の森小学校・合志楓の森中学校～

小中一貫教育に掲げる教育目標をもとに、児童生徒に身に付けさせたい力を小・中学校全教職員で考え、目指す3つの力を設定した。小中学校の教員混合の5つの部会を中心に、確かな学力をつけさせる授業づくりと3つの力を育成する取組を小中学校で共通実践として行っている。



児童生徒に身に付けさせたい力を3つに整理（やりぬく力・伝える力・協働する力）し、小・中学校の全教職員が共通理解を図り、5つの部会を中心に実践を行っています。

「授業づくり部会」では、小・中合同の大研や中研など、小中学校の職員がお互いの校種の授業を参観し合う取組を行っています。小・中学校それぞれの視点やよさを生かしながら実践を進めることができています。

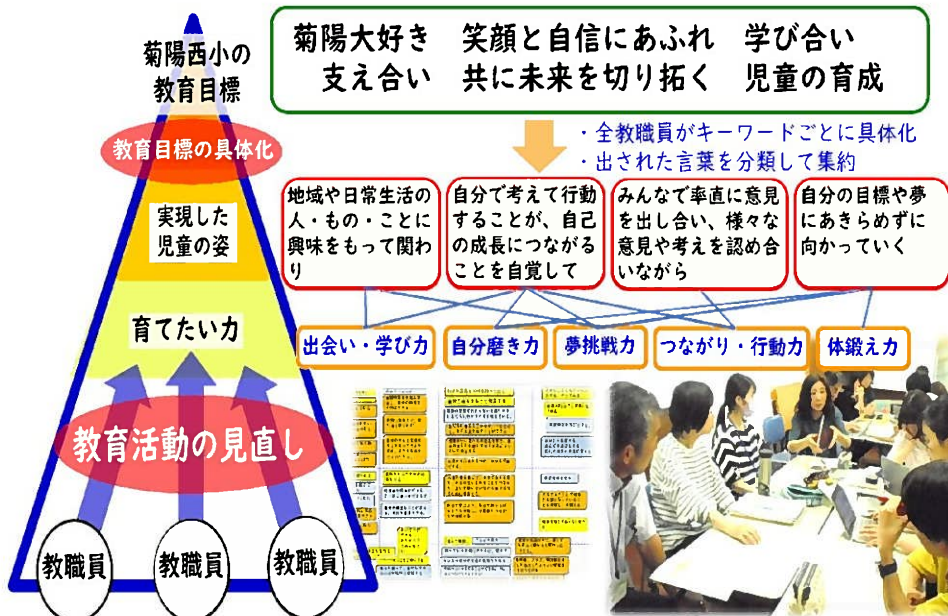
また、各教科の小1から中3までの教科で身に付けさせたい力が一目で分かる単元配列表を作成しました。単元をデザインしていく上で、常に9年間の学びの連続性を意識した授業づくりができるようにしています。

小5年	小6年	中1年
「わたしの文庫見本帳」を作ろう 文章のよさを見つけて生かす	君たちに伝えたいこと／春に 文章を読んで、自分の考えを広げたり 深めたりすることができる	心に残る出来事を表現しようー日常生活から 生まれる随筆 日常生活の中から題材を決め、伝えたい出来 事と想いを明確にする。 出来事と想いがよく伝わるように、表現を工夫 して随筆を書く。
手塚治虫 伝記を読んで考えを深める 資料を見て考えたことを話そう 考えが明確に伝わるように話す 資料と関係付けて話す	聞いてほしい、この思い 思いが伝わるように話す 「卒業文集」を作ろう 思いを伝える文章を書く	わたしの中にも 詩に描かれた情感や心情を的確に捉える。 話し合いで理解を深めようーグループディ スカッション 話し合いの最中に注意し、お互いの発言を結 び付けて、考えをまとめる。

【小中合同の授業研究会の様子と単元配列表】  
7月に実施した大研の様子を映した写真（左上と右上）  
と国語の単元配列表の一部（下）

すべての教職員で目指す子供たちの姿を具体化し、教育活動の改善に生かす  
～ 菊陽町立菊陽西小学校～

- 学校教育目標を実現した子供たちの姿の具体化
- 具体化した子供たちの姿を目指した教育活動の改善



学校教育目標を実現した子供の姿を全教職員で思い描き、それを言葉で集約し、具体化しています。これにより、学校の教育活動は「具体化した子供の姿の実現を目指して全教職員で行う」という基本認識をもって、同じビジョンで「育てたい力」の育成を図るようにしています。

また、校内研修では、教育活動の改善について話し合う時間を設定しています。具体化した児童の姿につながるように、様々な教育活動の見直しについてクラウド上で意見を収集したり、学年部で協議をしたりしています。

【取組の全体像と協議の様子】

自分のことを自分の言葉で語る人権教育の取組  
～ 菊池市立菊池北中学校～

- 人権教育推進委員会で目指す姿を共有し、校内研修、学年会、生徒会活動に取り組む
- 自分のことを自分の言葉で語れる力を育むために、「スピーチ」と「返し」を継続する

自分のことを自分の言葉で語る取組

P	人権教育推進計画及び全体計画の見直し
D	人権学習や作文大会の取組と日常の取組
C	授業研究会の参加者感想及び学校評価 (生徒・保護者・教職員・地域・行政)
A	評価・感想の共有、1分間スピーチと返しの充 実、学習成果発表会及び人権劇の取組



本校では、人権尊重の精神に立った安全・安心に過ごせる学校を根幹に据え、人権教育主任を中心に人権教育に取り組んでいます。取組に当たっては、人権教育推進委員会で目指す子供の姿や取組を協議します。これを基に、学年で教材研究、委員会の運営による人権集会の実施、職員の人権問題についての基本的認識及び実践的指導力を高める校内研修を行っています。

また、自分のことを自分の言葉で語れる力を育むために、人権学習での自分を語る取組に加え、毎日の帰りの会でも1分間スピーチを行っています。その際、聞き手も自分のこととして考え、共感したりこれからの行動を考えたりするために、発表者に対する「返し」を大切にしています。

問いが生まれ、学ぶ必然性やよさが実感できる取組  
～合志市立西合志中央小学校～

○既習事項の活用や課題提示の工夫を行うことで、子どもの問いが生まれ、学ぶ必然性やよさが実感できる導入の実践



【電子黒板を見ながら『先生からの挑戦状』に意欲的に取り組む児童】

単元の導入では、既習事項と本時の課題の違いを比べることで、「どうしたらいいんだろう」「やってみたい」という気持ちを引き出しています。  
3年算数科「表とグラフ」の導入では、表やグラフにまとめる必然性やよさを実感できるようにするために、『先生からの挑戦状』としてアンケート結果を分かりやすく表す方法を考えました。子供たちはアンケートの回答用紙を1枚1枚数えていましたが、数え間違いやどこまで数えたか分からないといった困った状況が出てきました。そこから出た子供たちの呟きを基に本時のめあてを立てることで、自分事として主体性を持って問題に取り組むことができるように工夫しています。

「主体的・対話的で深い学び」を実現する「学び合い」～目的を持たせた対話活動～  
～合志市立合志南小学校～

○対話を通して学び合う学び手の姿を子どもたちと共有する「学びの手引き」  
○目的を持たせた対話につながる学習形態の工夫

「学び合い」のグループ活動にするために

まへ	つえ
つえ	つえ

グループ活動の進め方

- ① つくえの役割を明確にすることで、お互いの役割が分かっていく。
- ② つくえの役割は、自分の考えを相手に伝えること。
- ③ つくえの役割は、相手の考えを聞き、自分の考えを相手に伝えること。
- ④ つくえの役割は、相手の考えを聞き、自分の考えを相手に伝えること。

相対的な学びを促す工夫

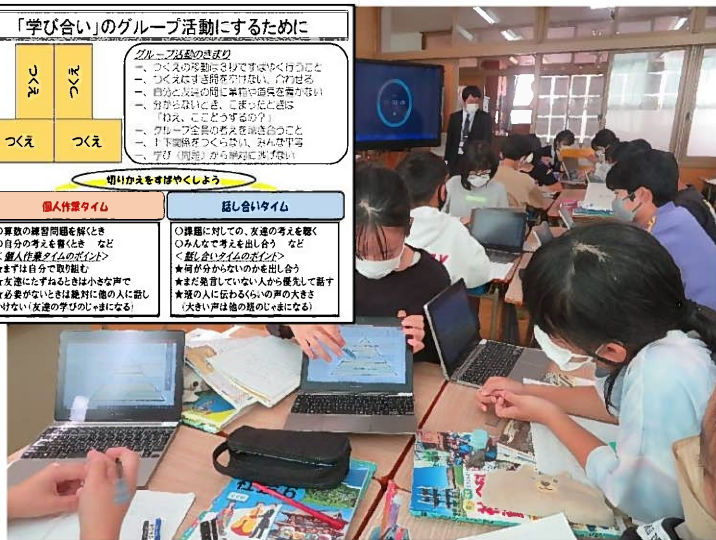
個人作業タイム	話し合いタイム
---------	---------

個人作業タイム

- 算数の練習問題を解くとき
- 自分の考えを書くとき など
- 個人作業タイムの役割
- 必ず自分から発言し
- 友達に話さずるときは小さな声で
- 必要がないときは絶対に隣の人に話しかけない(友達の話の邪魔にならない)

話し合いタイム

- 課題に対しての、友達のことを聞く
- みんなの考えを出し合う など
- 話し合いタイムの役割
- 必ず自分から発言し
- 必ず発言している人から優先して話す
- 友達の人に伝わるくらい、声の大きさを調節する(大きい声は他の話の邪魔にならない)

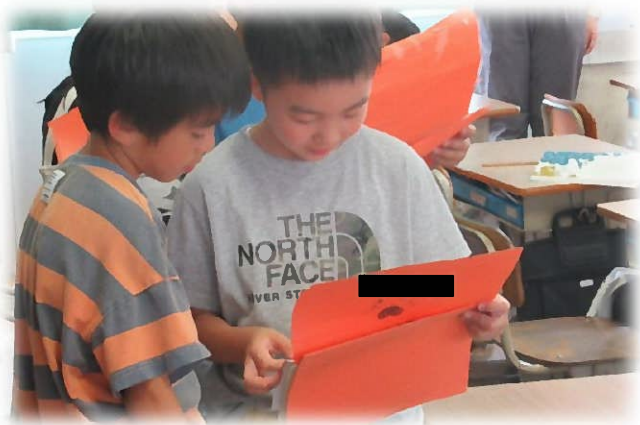


【対話する子どもの様子】  
【子どもに配布する「学びの手引き」】

本校では、「学び合い」を研究の中核に据え、特に今年度は「対話活動」に焦点化し実践・検証を行っています。対話を「他者との関わりを通して創出される学び」と捉え、年度初めに子どもたちに「学びの手引き」を配布することで、対話的に学ぶための学習規律を整えます。研究授業では、ペアやグループなどの学習形態が授業のねらいに合っていたか、対話を通して子ども一人ひとりにどのような学びが生まれていたか検証するようにしています。  
子どもたちは、対話を重ねることで、学習内容をより深く考えたり、他者に伝えるために表現を工夫したりするようになっていきます。学び合いを定着させ、誰一人取り残さない授業の実現を目指します。

考えを深める道徳科での取組  
～合志市立南ヶ丘小学校～

- 考えを深めるために、自由交流を行う。
- 内容項目について、児童の生活体験を引き出す。



【授業の様子】

発問に対する意見を、友達と自由に交流しています。

展開での意見交流では、児童が教室内を歩きながら、自由に友達と交流できるようにしています。さらに、友達の意見で自分とは違うものや「なるほど」と思えたものについては、赤鉛筆で線を引くことで、考えを深めるようにしています。また、内容項目「節度・節制」について、教師自身も経験を語りながら、児童自身の生活経験を引き出すようにしています。日常生活と結び付けることで、道徳での学習を生活に生かすことができるようにしています。

「やってみよう」「なるほど」「きっと」が生まれる展開の工夫  
～大津町立大津北中学校～

- 実物を効果的に用いた探究型学習（理科・動物のなかま）



【授業の様子】

脊椎動物や無脊椎動物の体のつくりの共通点や相違点を実物を観察しながら学んでいます。頭骨は、山口県の動物園と交渉して貸与してもらいました。実際に見て、触って、実験したことが子どもたちにとっては一番の学びになると感じます。

はじめの授業では、動物について知っていること、疑問に思っていること、もっと知りたいことを等を挙げさせ、子どもたちが単元を通して解決したい問いを持った上で実物を用いて学びを深めています。子どもたちは、動物の体について知っているようで知ったつもりになっているところがたくさんあります。1時間1時間の授業に新発見が生まれることが多く、授業を通して「観察」することの面白さや「見る視点」の大切さに気づいていました。

数学的活動を行い、基礎・基本を習得する取組  
～菊陽町立武蔵ヶ丘小学校～

- 色板や棒を使って操作活動を生かす工夫（プリントなどの適応問題に取り組む）
- 学習したことを生活や他の教科に生かすことができる工夫



色版で形を作っている様子



適応問題に取り組んでいる様子

算数の『かたちづくり』の学習では、具体物として色板を使い数学的活動を行う。「どうなるかな」「こうすればいいかな」と友達と試行錯誤しながら考えていく。その後、お互い発表し学びを深め組み合わせを確認する。適応問題に取り組む時間を設定し、活動したことが、実際に問題として解くことができるかを確認する。活動と問題を解くことを繰り返し、「できた」「わかった」を実感することができる。

生活科の『リースづくり』では、算数で学習したことを生かし、棒を組み合わせて飾り付けをする姿が見られた。

今後も生活の中で、『かたちづくり』をしたよさを実感することで、算数の有用性にも繋がっていくと考えられる。

体育科の授業におけるミニテニスの動きについて、ICTの効果的な活用を通して実態と課題を捉え、友達と意見を交流しながら自らの学びを深める取組  
～菊池市立花房小学校～

- 授業の導入と終末で、ICTを活用して本時の課題となる動きや成果と思われる動画を提示し、具体的なイメージを持って作戦を考えたり学びを振り返ったりする。



【上：授業の様子】  
動画を見て課題を  
考えています。

【右：撮影の様子】児童同士で支え合います。

単元の始めに映像や写真を提示して技能面の具体的なイメージをつかませます。授業では、毎回活動の様子を児童同士で動画の撮影を行い、体育における見方・考え方の「支える」役割を担います。次の授業で課題となる部分を提示してチームの目標や課題を捉える材料として活用します。実態を基に話し合うことでより具体的な作戦を考えたり、チームの良さを生かそうとしたりする姿が見られ、主体的に対話を行い、学びを深める態度につながります。



### 第3章

【主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用】実践例

#### 共同編集機能を活用した振り返りの実践 ～大津町立大津小学校～

- 共同編集機能を活用した児童の振り返りの一斉入力
- 教師による項目ごとの価値づけと評価・次時の課題

共同編集機能のある表計算ソフトを利用し、授業終末の5分間で振り返りの一斉入力を行っています。児童の振り返りに対して、教師が項目ごとに色をつけ、振り返りの価値づけを行います。児童の振り返りに教師の評価や価値づけが加わることで、振り返りの内容の深まりが出てきました。さらに、次の授業の最初に児童の振り返りの中から出た疑問をもとに課題の設定を行うなど、振り返りの活用を行っています。

「分数×分数」ふり返り 7月3日		振り返りの視点	【先生から】				
ふり返りのポイント	① 今日の学習で、やったこと ② 分かったこと・できたこと・分らなかったこと・難しかったこと など (友だちの考えを聞いて、思ったこと・発見なども書ければ Good!!) ③ 次に学習したいこと、疑問に思ったこと		具体的に教えてほしい!(何を学んだの?)	友達から学んだことはあった?	次の課題は?	がんばって!	よい自己評価☆
教師による価値づけ	友だちの考えを聞いて      次にやりたいこと      疑問・分らなかったこと		B	B	B	B	A
4	今日は、掛け算の性質は掛け算にもあるのかを調べました。やってみて、最初の予想は掛け算の性質はあると思っていて、算で考えたときに、みんなそれぞれで式を考えていたので、役割分担したらいいのと言われて、あー随分かと思いました。去年やった性質のところがよく分かってなくて、昨日教科書整理したときにちらっと見たから、去年のが記憶出てくるから、とっておくべきだなと思いました。小数を分数に直すときのやり方を覚えていない人が結構いたので、復習していきたいです。次は3つぐらい数字が出てくるのがやりたいです。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
5	今日は、小数×分数の求め方を考えました。小数のときは、小数を分数に変えると小数×分数の答えが求められるということがわかりました。そして、練習問題では、小数×分数×整数の問題も出ました。でも解けたので、良かったです。2時間目は、掛け算の性質は、分数の掛け算もあるのかを調べました。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

【教師による価値づけを行う振り返りシート】

振り返りの評価

### 第3章

【主体的・対話的で深い学びへとつながるICTの効果的な活用】実践例

#### 課題解決のために児童が自らICTを活用する取組 ～大津町立室小学校～

- 授業において、児童が自らICTを活用し、課題解決を図る学習活動の設定
- アンケート機能や表計算アプリを活用した「振り返り」の効果的な活用



【算数科の授業におけるICTの活用場面】  
タブレットPCを用いて、考えをまとめたり、伝えたりして協働的に学ぶ児童の姿

全ての児童が、自分の考えを伝えたり、聴いたりして協働的に学ぶ授業実践を追求しています。授業における課題解決の場面において、自分の考えをまとめたり、伝えたりするために児童が自らICTの活用に取り組む場を設定しています。

例えば3年生(算数科)の授業では、繰り下がりのある引き算の解法を考え、説明する授業を行いました。「繰り下がり」のやり方について、タブレットPCを用いて視覚的に示し、グループで考えをまとめる姿がありました。

また、授業の終末に行う「振り返り」をアンケート機能や表計算アプリを活用することで、児童が自ら記入し、学びを振り返ることができています。

タブレット・ICTを活用して、生徒同士が互いに交流しあい、「まとめ・振り返り」へつなげ、学習内容の定着を図るための取組  
～菊池市立泗水中学校～

タブレットを活用したペア同士の交流活動、前時の学習内容を電子黒板で復習するなどの活動を行っている。また、学習内容の振り返りをネット上で積み立てていくことで、生徒は自身が振り返りをした内容を見直すことができ、どのような学びを行ってきたか学びなおすことができる。また、振り返りの視点を持たせることで、自分たちができるようになった力を振り返るようにしている。



【写真1】



【写真2】

これまでの学習で練習し、学習したパワーポイントの内容をTeamsを通して生徒たちに送り、個人やペアで練習しあうことで、更に定着を図るようにしています。（写真1）

各単元で学習したデータを送ることで、いつでも学習した内容を自分たちで学びなおしができるようにしています。

また、電子黒板を活用し、視覚的に分かる取組を行っています。

授業の振り返りでは、インターネット上に振り返りを行うことで、自分のこれまでの振り返りの内容とクラスメイトの学びを一緒に見ることができるようにしています。（写真2）

## 第5章

### 【家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習〈学校編〉】実践例

#### 「家庭学習週間」の設定 ～合志市立西合志東小学校～

- 西合志南中学校の定期考査の時期に設定
- 西合志南中学校校区3校での共通実践

日づけ	宿題の計画	予定	記録
9月4日(月)	プリント1枚... 自学1P. 内容:算数 (ミスマ) 音読P117-120	3:30~4:20 6:30~6:50	算数ノート1ページ(25分) 算数プリント(30分) ライアラリ(15分)
9月5日(火)	プリント1枚... 自学1P. 内容:算数 (ミスマ) 音読P117-120		
9月6日(水)	プリント1枚... 自学1P. 内容:わり算 音読P117-120	3:35~4:20	算数プリント(25分) 漢字ノート(20分)
9月7日(木)	漢字57、58 プリント13 音読P117-120	6:35~7:00	ライアラリ(25分) [算数25分]
9月8日(金)	漢字No41-42 プリント13... ミスマ算数 音読「一つのせ」		漢字ノートは休あつたのでライアラリの時間を確保したい。間に予定が入ったのでできない。計画通りはできていないが、自主学習は頑張った。計画通りはできていないが、自主学習は頑張った。

熊本県学力・学習状況調査の質問紙調査で「学校の授業の予習や復習をしていますか。」の定着率が低いことから、「小中一貫教育グランドデザイン」を基に家庭学習週間を設定し、家庭学習の充実に向けた支援を行っています。

幼保小中が連携して作成している「育ちのものさし」を参考に、小学校低・中・高学年、中学校の目標を3校で共有しています。

本校では、中学年においては自主学習の充実、高学年においては家庭学習計画の立案に重点を置いて、計画・振り返り表を用いて取り組んでいます。

安心メールと学年通信で家庭に周知し、協力を得ています。

#### 【家庭学習週間の計画・振り返り表】

事前にどのように取り組むか計画を立て、事後に実践記録と振り返りを記録します。

## 第5章

### 【学習習慣形成の素地となる環境づくり（五者連携）】実践例

#### 地域と連携した「菊池市かわまちづくり『かわびらき』」の取組 ～菊池市立菊池南中学校～

- SDGsの達成を地域とともに目指すESDの実践例
- 地域学校協働活動～地域活動推進員の活用～



#### 【「かわびらき」当日の様子】

実際に菊池川水系の河川に行き、地域の方々とともに「かわびらき」行う生徒の様子

本校ではESDの視点を取り入れた生徒会・委員会活動を行っています。総合的な学習の時間を「未来創造タイム」とし、年8回各委員会の目標達成に向けた活動に取り組んでいます。

地域学校協働活動に取り組む中で地域活動推進員を積極的に活用し、目的に合った人材の確保や地域との協働的な学習を進めています。

本年度は、菊池市の「かわまちづくり『かわびらき』」に地域活動委員会が参加しました。菊池高校生からこれまでの取組を学んだり、絵手紙講師の方にご指導いただいたりして、来場者に配布するうちわや缶バッジを制作しました。菊池名産のスイカやメロンの柄に色付けしたうちわが「かわびらき」を彩りました。

# 柱1 【個に応じた指導・習熟度別指導の拡充】実践例

主体的に学びに向かう生徒の育成を目指して  
～ 合志市立西合志中学校 ～

## ○コースを自分で選択する自習コーナーの設置



【黙々コースの様子】

昼休みや放課後に、3年生が自分でコースを選んで、学習できる場を確保しています。  
一つは、「教え合いコース」。生徒たちが、分からないところを教え合いながら、学習を進めていきます。教師がボランティアで教室の前に座り、質問を受け付けられるようにしています。明るい雰囲気、楽しく学習に取り組むことができます。  
もう一つは、「黙々コース」。自分のペースで、人に話しかけられることなく集中した生徒が集まって、黙々と学習に取り組めます。もちろん質問があれば、隣の教え合いコースにいる教師や職員室にいる教師に質問に行くこともできます。写真では、タブレットの「デジタルドリル」に黙々と取り組んでおり、ICT活用も進んでいます。

# 柱1 【読み・書き・計算の習得の徹底】実践例

朝活動での学習規律の指導と漢字・計算大会の取組  
～ 菊池市立隈府小学校 ～

- 学力向上ロードマップに位置付けた朝活動（学習の心構え、ノート指導、話し聞き方・伝え方）の取組
- 漢字・計算大会を活用した基礎基本の習得

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学習の心構え	学習の心構え	学習の心構え	学習の心構え	学習の心構え	学習の心構え	学習の心構え
話し聞き方・伝え方	話し聞き方・伝え方	話し聞き方・伝え方	話し聞き方・伝え方	話し聞き方・伝え方	話し聞き方・伝え方	話し聞き方・伝え方
漢字	漢字	漢字	漢字	漢字	漢字	漢字
計算	計算	計算	計算	計算	計算	計算

学習規律に関する共通実践事項について、月ごとに重点項目を設定し、朝活（10分）で指導を行っています。4月：学習の心構え、5月：ノート記入、6・8・10月・12月：話の聞き方・伝え方を節目となる時期に指導しました。また、話の聞き方、伝え方については、デジタル教科書の動画を活用したり、「となりのとなり」などゲーム性を持たせたものも取り入れたりしています。  
漢字大会については、事前に出題問題を知らせて練習に取り組ませています。同じ問題を大会で出題することで、漢字に対して苦手意識を持つ児童も意欲的に取り組み自信をつけています。計算大会についても家庭学習等で事前に類似問題に取り組ませています。また、合格するまで再テストを繰り返して漢字・計算の基礎基本となる技能習得につなげています。

【学力向上ロードマップ】  
学力向上の取組を共通実践し学校総体として取り組んでいます。

【話の聞き方・伝え方の活動の様子】



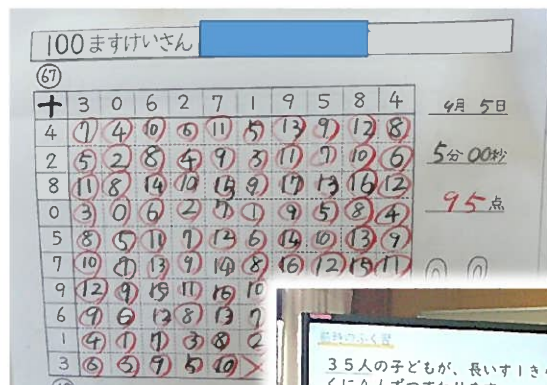
テーマについてペアで対話しスキルを高めます。

## 柱 1

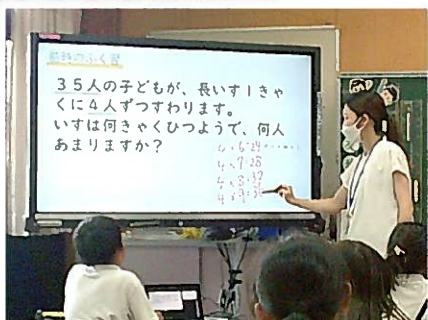
# 【読み・書き・計算の習得の徹底】実践例

### 基礎学力定着のための取組 ～ 菊池市立旭志小学校 ～

- 朝学習の時間を活用した基礎学力の定着のための取組
- 授業冒頭5分程度を使った前時の振り返りや基本的なスキルのウォーミングアップ



【朝学習での  
100マス計算】



【本時に係る前時の振り返り】

旭志小学校では、課題である基礎学力の定着の時間を生み出すために、月～金曜日の朝学習の時間を読み・書き・計算の反復練習の時間として位置付けています。100マス計算を繰り返し行う中で計算が早くなったと実感できている児童もいます。

また、授業冒頭5分程度を前時の復習やその時間に必要なスキルのウォーミングアップの時間としています。本時の課題解決のヒントとなったり、必要なスキルを復習することでスムーズに本時の学習に取り組むことにつながっています。

## 柱 1

# 【定着確認の徹底】実践例

### 基礎的・基本的な知識及び技能の徹底に向けた取組 ～ 菊池市立七城小学校 ～

基礎的・基本的な知識及び技能の習得や各学年の学習内容の確実な定着に向けて、児童が意欲的に取り組めるよう、学習補充の時間を設定している。



【ななしろタイムの様子】

週1回、放課後の時間を「ななしろタイム」として位置付け、補充の時間を設けています。学習応援団（地域の学習支援ボランティア）の方々にも入っていただき、個別学習を行っています。

学習内容については、県や市での学力調査等を活用し、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能について学年部毎に確認を行い、取り組む課題について精選しています。

また、子どもたちは、地域の顔見知りの方から教えてもらえるという安心感を持って学習することができています。今までの丸つけボランティアと違い、分からない人についていただき、個別に教えてもらうことで、学習内容の確実な習得につながっています。

## 柱 1

### 【定着確認の徹底】実践例

#### パワーアップタイムや家庭学習を通して学習内容の定着を図る取り組み ～合志市立合志小学校～

毎週木曜日の朝活動や授業導入時、週に1回のパワーアップタイムを行い、子どもたちに学習内容の定着を図っています。また、家庭学習の一つとして出すプリント学習の内容を工夫し、当該隔年や前学年での学習内容の定着を図っています。



【パワーアップタイムの様子】

基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けて、毎週木曜日の朝活動を学力充実の時間と位置づけ、漢字や計算問題等の基礎学力向上を図っています。また、授業導入時には、「パワーアップタイム」を行い、児童たちが主体的に学びを進め、該当単元で身につけなければならない基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っています。さらに、週に1回の「パワーアップタイム」では、国語、算数を中心に担任外の職員も指導に入り、複数体制で指導を行い、個に応じた指導を行っています。

家庭学習の一つとして毎日出すプリント学習では、片面を今学習している内容、もう片面を前学年で学習した内容とし、基礎学力向上を図っています。

## 柱 1

### 【定着確認の徹底】実践例

#### 「基礎・基本の時間」（学習タイム）の設定 ～菊陽町立武蔵ヶ丘北小学校～

- 本校学力の課題改善のための「基礎・基本の時間」（学力向上タイム）の設定
- 学習内容の定着を図る複数体制での支援の取組



【基礎・基本の時間の様子】

「基礎・基本の時間」として低学年は、月曜の5時間目、高学年は6時間目に45分間、児童が一斉に基礎、基本等の問題を解いています。

全学調や町学調等の成果と課題を全校職員で把握し、課題改善に向けた重点期間を設け「基礎・基本の時間」を8時間設定しています。

低学年の5時間目には、教育支援員が入り、高学年の6時間目には低学年の職員が入り、複数での指導体制を整えています。

学習前の子どもたちの実態を共有し、役割分担をして全体と個別の指導・支援を行っています。また、全学調や町学調等間違いが多かった観点・領域の問題を数字を変えたり類似問題を提示したりする等の工夫をしています。

# 柱 1

## 【定着確認の徹底】実践例

### 県学力調査の分析と誰一人取り残さない授業づくりの取組 ～ 菊陽町立菊陽中学校～

○熊本県学力・学習状況調査を活用した「誰一人取り残さない授業づくり」に向けた共通実践



【グループ学習と個別の声かけの様子】

昨年度の県学調の結果分析をもとに、全国の平均正答率の5割未満の生徒の状況について、年度初めに全職員で共通理解を図りました。

研究授業では、平均正答率5割未満の生徒を職員間で共有し、その生徒に対する手立てや、理解について検証しています。グループ学習や個別の声かけを意識し「誰一人取り残さない授業づくり」に取り組み、定着確認の徹底を図っています。

今後は、今年度の県学力調査でこの生徒たちがどのように変容したのかを検証する予定です。

# 柱 1

## 【読解力向上の取組】実践例

### 理解語彙と使用語彙の獲得による読解力向上に向けた取組 ～ 大津町立護川小学校～

○豊かに語彙を学び、考えを豊かに表現するために必要な語彙力の向上  
○理解言語を使用言語まで高める取組

子どもが読解力を向上させるためには、豊かに語彙を学び、考えを豊かに表現できることが必要になる。そのためには、「語彙力」を高めることが不可欠になる。語彙力は、「理解語彙」（読んだり聞いたりしたときに、理解できる語）と「使用語彙」（書いたり話したりするときに使える語）からなる。

本校では、理解言語を増やし、使用言語まで高める取組として、語彙の意味をしっかりと理解して、様子が詳しく分かる文を作ることを通して、読解力の向上を目指している。

【2年生児童による取組の様子】

★「だれと」、「どこで(時)」、「気持ち」を加えて様子がよく分かるようにした文の例

わたしは、友達と一緒に、ろう下で版画を刷った。上着がよこれてしまい、悲しかった。

★「だれが」、「いつ(時)」、「だれと」を加えて様子がよく分かるようにした文の例

わたしは、図工の時間に、友達と協力して、版画を刷った。

版画を刷る。

① いつ 今日 きのう  
朝から きょう  
年

② どこで 教室で 学校で  
家で こうえんで

③ だれと 友だちと  
家そくと  
みんなと

④ 何をした あそんだ  
べんきょうした

## 柱 2

## 【校内研修内容の重点化】実践例

教員が学級の実態を捉え、同じ課題を持つ教員と協働して授業改善をする取組  
～ 菊池市立菊之池小学校～

- 各学級の課題に応じた授業改善の取組
- 教員の実践の共有と改善



【調査問題と学年の課題の分析の様子】



【実践発表と今後の実践事項の話合いの様子】



6月の校内研修で、全国学力・学習状況調査の問題（国語）を全職員で解きました。さらに、担任する学年の令和4年度県学力調査の結果から、各学級が取り組むべき授業改善の方向性を担任一人一人が明確に持ちました。その後、国語の領域別に研究チームを作り、具体的実践事項を話し合いました。

そして、夏休みの校内研修において、研究チームの中間発表を行い、実践を共有しました。そこで、見いだされた課題から夏休み後の実践を計画しました。

以上のことから、教員一人一人が意図を明確にもった授業改善を行うことができるだけでなく、実践発表により、一人一人が持つ知識や技能を、教員全体に広げることができています。

## 柱 2

## 【校内研修内容の重点化】実践例

学校全体の課題を踏まえた授業改善・共通実践とその検証  
～ 菊池市立戸崎小学校～

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善
- 全職員での実践の共有から、それぞれの授業に生かす取組



【国語の授業の様子】

学習リーダーが前に立ち、前時までの学習の振り返りを行っています。

本校では、児童の主体的な学びにつながる授業展開が課題となっていました。学習リーダーの活用やICTの効果的な活用、児童同士の交流の場を生む教師のコーディネートをとおして、児童主体の授業改善に取り組むことを確認し、このことを実践しています。

共通の取組として、全学年で、各教科の学習リーダーを決め、前の時間の振り返り、めあての確認、授業後半では、授業全体の振り返りやまとめなどを行い、児童の活動の量及び質の向上を目指しています。

また、校内研修で確認した上記のようなポイントを盛り込んだ学習構想案を作成するとともに、授業研究会ではそれらの視点に沿って協議を行い、成果・課題を共有することでその後の授業に繋げています。



## 柱2

## 【校内研修内容の重点化】実践例

### 児童生徒を主語にした、協働的な学び作りを目指す取組 ～ 合志市立西合志第一小学校 ～

- 特別活動を通して、一人一人が課題を見つけ行動するための取組
- 互いの発言を通して、思考力を深めるための取組



【委員会による朝活動及びオンライン集会】



場面	話し合いの目的	話し合いの型
朝活動	掃除用具の確認	あいさつ運動の呼びかけ
オンライン集会	企画や提案の発表	質問・回答
授業中	課題の発見と解決	話し合いの型

【授業中の話し合いの様子と話型について】

各委員会による集会を月に1～2回行っています。各委員が企画や提案をして、オンラインで集会を行い児童に呼びかけています。掃除用具の確認をしたり、あいさつ運動の呼びかけをしたりすることで、児童自ら考え、行動することで自主性が高まってきています。オンラインで集会を開くことで時間の短縮もでき、効率化を図っています。

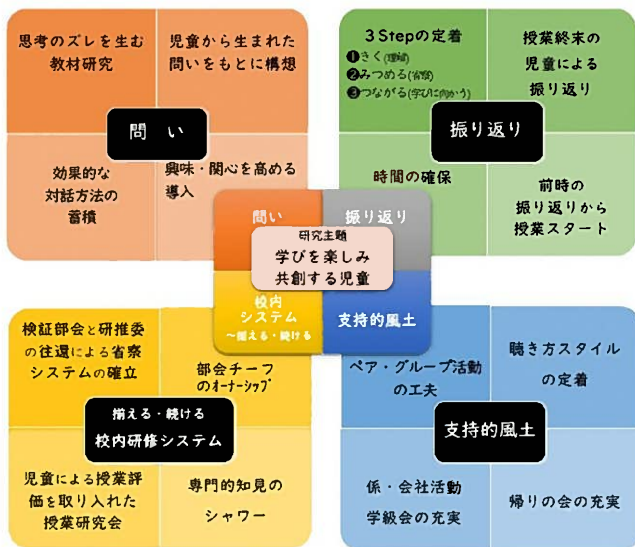
また、本校では話し合いのスキルを高める活動を行っています。話し合いの話型を提示し、教職員間でどのように話し合いを深めて行くかを話し合いました。話し合いを深めるために、お返しの言葉を意識したり理由を付け加えて話したりするなどを授業の中で活用をしています。また、反応の仕方も指導し、聞き手の反応も大切にしています。

## 柱2

## 【校内研修内容の重点化】実践例

### 校内研まんだらの活用を通して、成果と課題を共有する取組 ～ 大津町立美咲野小学校 ～

- 研究の視点をチャート図に整理し、校内研まんだらを作成
- 研究の成果と課題について、校内研まんだらで見える化、共有化



【みさきの校内研まんだら】

研究主題「学びを楽しむ共創する児童の育成～「知りたい」「やってみよう」を生む学習デザインの実現を目指す～」の具現化を目指し、「問い」「振り返り」「支持的風土」の3つの検証部会を設置しました。研究推進委員会でそれぞれの視点を整理し、「校内研修システム」を加えた4分野16項目のチャート図「校内研まんだら」を作成しました。職員は週計画簿に挟み、いつでも確認できるようにしています。

10月に研究の成果と課題を「校内研まんだら」の16項目で整理し、共有しました。数値化することで、取組の見直しが必要となる視点が明確になり、修正や改善に向けて議論を重ねています。「揃える」「続ける」の全職員共通認識もと、さらなる研究に励んでいます。

### 主体的・対話的な校内研修の工夫 ～合志市立合志中学校～

- 職員間の「対話」に重点を置き、「主体性」を引き出す校内研修の実施
- ICTを活用し、職員がお互いの実践をいつでも見返ることができる工夫

**学習課題** 本年度「私」がこだわっていききたいことは？

授業中最低は1回は笑顔でほめる ( )

知識だけでなく、将来、役に立つような授業  
失敗をみんなで支えあえる、認め合える雰囲気 ( )

ソーシャルスキルトレーニングを行い、生徒と教師がつながり、生徒と生徒をつなぐ ( )

生徒が自ら課題設定し、探究できる授業 ( )

＜資料①＞

#### 【資料① PowerPoint等を活用した研修の記録】

過程	時間	学習活動	手立て	6班
導入	10分	1 本時の問題をつかむ。	(別)タイズ形式の活用 視覚的な支援 子供たちの発言を促す その中にあった疑問点を生徒に促す 英語のワーキングアウトプット	
展開	30分	2 問題解決に向けて活動する。 ①自分で考える。 ②班で考える。 ③全体で考える。	(別)タブレットの活用 生徒自らが得たものを使って発表 班での役割分担 意図的な班構成 班の中で「待つ」行為はさせない	
終末	10分	3 本時をまとめる。 4 適用問題を解き、本時の学習を振り返る。	ほかの教科とのかかわりを示す 結果に「観点」を出す 「一行でもいい」と高揚 行かない生徒には記録や確認してアドバイスする	机間指導

#### 【資料② ICTを活用した協働的活動】

職員一人一人の主体性や課題意識を高めるために、「研究授業を見て、これから自分の授業をどうしていきたいか?」「今後、学校全体で充実させていくべきことは?」「定着率40%未満の生徒への具体的な手立てや実践事例は?」といった「校内研修課題」を提示して研修を進めています。「本年度こだわっていききたいことは?」という課題に対しては、職員から資料①のような意見が出されました。

また、Jamboard等への書き込みなど、ICTを活用した協働的活動(資料②)を取り入れ、互いの実践を共有し合うことに重点を置いています。協働を重視した研修を行うことで、職員が主体的に研修に参加するようになってきました。記録はTeamsに残しておき、いつでも見返すことができるようにしています。

### 全職員が生徒のモデルとなる主体的で協働的な校内研修の取組 ～大津町立大津中学校～

- 学校教育目標の実現に向けて、チームによる協働的な課題解決型研修を行う。
- それぞれのチームによる取組の成果や課題を発表し、全職員で共有する。



【校内研修での中間発表の様子】

教員の資質・能力の向上は、授業や学級経営等に好影響を及ぼし、結果的に生徒の資質・能力の育成につながる。本校では、「真にやりたいことがやれる研修」をキーワードに、生徒のモデルとなる主体的・協働的な校内研修を実践している。

今年度は各人の希望を優先し、3つのチームを編成した。学校の課題解決も含めて、「学力向上」では授業での共通実践や家庭学習の充実、「仲間づくり」では構成的グループエンカウンターの実践、「ICT活用」では基礎技術のスキルアップ研修等の取組を行っている。10月に中間発表会を行い、各チームの実践を共有した。今後、1月末には成果報告会を行い、教育論文にまとめる予定である。

